

# 死刑囚絵画展 2005年 2014年

大道寺幸子基金の10年

## 死刑廃止のための大道寺幸子基金の死刑囚公募作品のすべて 9年間の応募作品全作品展示

### 死刑囚が描いた絵を見たことがありますか？

いま、死刑囚が描く絵に、大きな関心が寄せられています。各地で開かれる死刑囚絵画展には、大勢の人が詰めかけて、一枚一枚の絵とじっくり向き合っています。ちよつと怖いけど、ちよつと哀しい。罪を犯した人がこんな色づかいで絵を描けるのか。心の叫びが聞こえてくるようだ。償いの気持ちや家族への思いが伝わってきた。きれいで怖くて不思議な気持ちになった、罪と命って難しいですね。これだけの表現力があることも心情もわかるが、なぜ事件を起こす前に踏み留まらなかったのか。冤罪を訴える人の作品の迫力に打たれた——

死刑制度への賛否を超えて、さまざまな反響が届いています。死刑囚が文章や絵画を通して自らの思いを表現する「死刑囚表現展」が始まって、今年は10年目です。東京では、たくさん作品を一挙に展示する機会をつくること、なかなかできませんでした。10年目を期して、その初めての試みを行ないます。またとない、この機会に、ぜひ、お越しください。



2014年9月14日(日)～23日(火) 10時～21時  
(ただし、初日14日は15時～21時／最終日23日は18時まで)

**入場無料**

ギャラリー大和田 東京都渋谷区桜丘 23-21 渋谷区文化総合センター2階

主催 死刑囚絵画展運営会  
共催 死刑廃止のための大道寺幸子基金／死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム90  
アムネスティ・インターナショナル日本



2点共：松田康敏（2012年3月29日死刑執行）  
上・「タイムスリップ あの時代へ」2010年  
左・「アサガオの花」2010年

死刑囚絵画展 2005年～2014年

会場 ギャラリー大和田

渋谷区文化総合センター大和田2階  
区民学習センター（展示ロビー）

各線「渋谷駅」徒歩5分

